

610

特 251

3

177

8

# 廣東漢口攻略の重要性

—支那事變解決の最低條件—

東亞協會



# 始



3  
1

特251  
177



目次

我對支軍事行動の目的……………(一)

國民黨政權擊滅の最低條件……………(六)

漢口完全占領の意義……………(三)

廣東完全制壓の意義……………(八)

廣東攻略と臺灣・南洋問題……………(三)

廣東・漢口即時攻略の急務……………(二六)



# 廣東・漢口政略の重要性

—支那事變解決の最低條件—

## 我對支軍事行動の目的

五月中旬の徐州大會戦に於て、李宗仁を總帥とする抗日第五戦區の敵大軍に殲滅的大打撃を加へ、國民黨政權の頼みとする所謂蔣介石ラインの重要地區を粉碎して世界戦史に不朽の足跡を印した皇軍は、大殲滅戦後の休養をとる暇もなく直ちに次期作戦に移り、隴海線中部最大の要街開封・鄭州を含む抗日第一戦區撃破の作戦を着々進めてゐる。

京漢線によつて直ちに漢口に連なるこの第一戦區が、漢口に根據を置く國民黨政權にとつて如何に重大なる軍事的意義をもつかは敢て贅言を要しないところであるが、この重要陣地防守のために集結されつゝある抗日支那の精銳四十餘萬を前にして、我北支、中支兩派遣部隊の士氣は愈々あがり、これに甚大な期待と感謝とを示しつゝある銃後國

民の態度にも一段と緊張の色が漲つてゐる。

皇軍の戦果如斯擴大され、銃前銃後の士氣如斯揚がるに伴ひ、在支利權の動搖を惧る第三國、特に英國に於ては、日本の軍事行動を阻止することによつて蔣介石政權の倒潰を防がんとする氣運益々濃厚となり、表面飽くまで長期抗戰を絶叫しつゝある國民黨權最高首腦部間に於ても汪兆銘、孔祥照、宋子文、陳立夫、陳果夫等所謂主和派の動きが、親ソ派並に共產黨幹部等の主戰論に對抗して漸次活潑となりつゝあるが、これと相呼應するが如く、我國の一部にも事變の終熄近きにありとの見解を懷く向があるやに傳へられてゐる。

しかし我國に於てこの種の見解の現はれたのは今回が初めてではない。既に昨秋上海の陥落した際にも、次いで昨冬南京占領の完了した時にも事變の終焉が噂に上ほり、更に徐州大會戰の折にも日支和平の機近づけりとの聲が聞かれた。支那及び第三國に於ける觀測、豫想、希望の如何は別として、幾多の尊き犠牲と巨億の國帑とを捧げて曠古の大聖戰に一路邁進しつゝある我國に於て、對支軍事行動に關する斯の如き性急なる見解の行はるゝ所以は、その意圖、種類の如何に論なく、結局敵を知らず我を識らず、従つ

て今次事變の眞目的に對する充全なる認識の缺除に基因するものと言はねばならないのである。

然らば今次事變の眞目的とは何であるか？

これに對しては、事變勃發以來、帝國政府、關係各當局並に民間識者によつて極めて屢々聲明が發せられ、解明が試みられたのであるが、就中これを最も簡單且明瞭に闡明したものは、本年一月十六日、帝國政府の名に於て發表された我對支根本國策——所謂「一・一六」聲明並にその翌々日内閣書記官長談の形式に於て公表された補足的解説である。即ち帝國政府は我對支根本國策に關する一月十一日の御前會議並に十五日の大本營との聯絡會議に於て意見の完全なる一致を見たため、遂に十六日正午に至り歴史的な重大聲明を發表したのであるが、その全文を區分載録すれば左の如くである。

一、帝國政府は南京攻略後、尙ほ支那國民政府の反省に最後の機會を與ふるため今日に及べり

一、然るに國民政府は帝國の眞意を解せず、漫りに抗戰を策し、内民人塗炭の苦を察せず、外東亞全局の和平を顧みる所なし

- 一、仍て帝國政府は爾後國民政府を對手とせず
- 一、帝國と眞に提携するに足る新興支那政權の成立發展を期待し、これと兩國の國交を調整して、更生新支那の建設に協力せんとす
- 一、元より帝國が支那の領土及主權並に在支列國權益を尊重するの方針には毫もかはる所なし
- 一、今や東亞和平に對する帝國の責任愈々重し、政府は國民が此の重大なる任務遂行のため一層の發奮を冀望して已まず

右の政府聲明のうち、最も重大視さるべき「爾後國民政府を對手とせず」の一句に對する誤解を排し、一層明確なる認識を期待して、十八日、風見内閣書記官長は、政府の意嚮を代表し、談話の形式を以て大要左の如く發表した。

『「對手とせず」といふ言葉は、國民政府を否認するといふよりも一層強い意味をもつてゐる。何故ならば、支那に於ける新興政權を直ちに承認し、その反對効果として國民政府を否認するのではなく、一方的に「對手とせず」といふ強力な意志であるが故である。又これに關聯して宣戰布告の問題が論議されてゐるやうであるが、宣戰布告は政府が支那の國家及び國民を對手とすることを意味

する。しかし帝國政府は既に國民政府を以て支那の國家及び國民を代表するものに非すと斷じ、東洋平和のためにたゞ一途これが撃滅の聖戰を進めるとの意圖を以て「對手とせず」と決定したものであるが故に、この意味に於て我方の意志は宣戰布告よりも更に強いものである。』

右に掲げた帝國政府の公式聲明並に非公式談話の趣旨は、その後第七十三議會に於ける各派議員の質問に對する應答、内外新聞記者團との會見、中國臨時政府の實質的首班たる行政委員會委員長王克敏との會談その他種々の機會に於て、近衛首相初め各國務大臣乃至その代辯者によつて繰返し疏述され説明を加へられたが、最も森嚴眞摯なる御前會議に於て長時間に亘る検討を遂げ、大本營と政府との聯絡會議に於ける眞劍なる討議を経て公式に發表されたこの一・二六聲明こそ、今次事變に對する帝國政府の眞意圖並に態度を最も端的に表現せるものである。而も全國民は該聲明の結句に於て「この重大なる任務遂行のため一層の發奮を冀望して已まず」と述べられた政府の意を體して我國策遂行に全幅的協力を誓ふとともに、政府自らもまたその聲明の趣旨實現に全責任を負ふべきことを期待してゐるのである。

かくて事變に對する帝國の態度並に目的は既に極めて明瞭であり、これを對支軍事行

動に關聯して考察する時、その目標が終始一貫「國民政府擊滅」の一點に置かるべきこともまた極めて明瞭である。従つて國民黨政權の完全なる倒潰に先んじて徒らに蔣介石の屈伏を夢想し、軍事行動の途中に於て濫りに和平を希求するが如きは、自ら事變に對する認識の缺除を曝露し、我舉國的聖戰の意義を没却し、延ひては東亞百年の大計を誤るものと言はねばならないのである。

### 國民黨政權擊滅の最低條件

我對支軍事行動の直接的、中樞的目標が國民黨政權の擊滅にあることは既に極めて明瞭であり、第七十三議會に於て可決された數多くの對內的、對外的諸方策並に過般の內閣大改造が直接、間接にこの事變目的貫徹のための措置であることは勿論であるが、現地に於ける具體的な對支措置としては、國民黨政權の據つて立つところを徹底的に擊破粉碎することに主力が注がれねばならないのである。

然らば國民黨政權が現在及び將來に於て、なほ強大なる勢力を維持するためには如何

なる條件を具備しなければならないであらうか？勿論これには大小幾多の條件を指摘することが出来るであらうが、就中最も樞要なるものゝみを摘記すれば左の數項に要約することが出来るであらう。

#### 一、軍事方面

蔣介石直系中央軍の保全を圖り、これが裝備並に給養を可及的好條件の下に置き、且第三國よりの武器、彈藥、軍需品の輸入路を確保すること

#### 二、經濟方面

中支もしくは南支に於て富饒なる領土を確保し、この地域内の重要地點相互間及びこれと海外とを結ぶ交通・輸送路を維持し、且農業生産力並に輕工業生産力の増大を圖り、以て國內必需物資の可及的自給に努むると、もに、輸出の加増による海外よりの物資供給の圓滑並に關稅收入の確保を期すること

#### 三、金融方面

法幣價值並に對外爲替相場の維持に努め、併せて第三國特に英米兩國の財政的援助を繼續せしむること

## 一、政治・思想方面

國民黨内部の軋轢を抑へ、地方諸勢力並に共產黨との相剋を回避し、民衆の抗日意識を益々尖鋭化し、對日抗戰に於ける最後の勝利獲得のスローガンの下に抗日救國運動の指導權を國民黨最高首腦部の掌中に確保すること

### 一、國際關係

英・ソ兩國との緊密なる關係を維持し、これを通じて米、佛その他の國々との友好關係を鞏化すること

右に掲げた諸項目はもとより夫々獨立したものではなく、相互に複雑なる有機的關係を有し、その一項が缺ければ他の一項もしくは數項も必然的に行詰まる可能性のあるものであるが、何れにしてもこれらは蔣介石を中心とする國民黨政權が、國內的並に國際的に有力なる政權としての生命を持続するために必須不可缺の最低條件である。而かも現在の國民黨政權はなほこれらの諸條件を充分に具備してゐるのである。

即ち國民黨政權は、今日なほ湖南、湖北、江西、廣東、福建、廣西、雲南、貴州、四川の九省の全部並に河南、安徽、江蘇、浙江四省の一部をその完全なる支配下に置き、西康、

青海、寧夏、甘肅、陝西の五省に對しても大體支配的地位を維持してゐるが故に、その勢力は地域的に見て支那本土二十二省の三分の二以上に及び、しかも楊子江に沿ふ中原の富饒なる地域は殆んどその威令下に確保されてゐる。従つてこれら廣大なる領域を地盤とする經濟的諸條件は決して悲觀すべきものではなく、その施策宜しきを得れば頗る強大なる軍事的、政治的勢力を養ふに足るものがある。

また財政、金融方面に於ても、事變前に比すれば甚しい混亂を來たしてはゐるが、しかし主として英國の絶大なる支持援助によつてなほ相當期間に互る耐久力を示し、法幣價值の如きも、我占領地區内に在る上海に於てさへノミナル・レート對日七四圓を稱へながら實際上のマーケット・レートは本年五月下旬に於て對日等價を示し、對外爲替相場も未だ破綻を來たす氣配など毛頭現はれてゐない。また政治的、思想的方面に於ては、敗戦に次ぐ敗戦によつて地方軍閥を中心とする諸勢力の反蔣的傾向が傳へられ、共產黨勢力の急激なる擴大による國共兩黨間の暗闘激化が屢々報ぜられてゐるが、しかしこれとも、國民黨の政治上並に思想上の指導力を全面的に破壊するほどのものでは勿論なく、却つて敗戦による民族意識、國家觀念の鞏北を齎らし、抗日救國を名とする國內團結の

緊密化を刺戟しつゝある事實は、國民黨の政治的、思想的地盤がなほ相當鞏固なものであることを物語つてゐる。

従つて列國の國民黨政權に對する希望はなほ維持され、更に國民黨政權並に英・ソ兩國の熾烈なる逆宣傳によつて日本の究局的敗退を豫想するものさへある状態であるが故に、國民黨政權の對英、對ソ關係は依然緊密の度を保ち、軍事的、經濟的乃至政治的援助も鞏化されこそすれ決して低減されてはゐない。更に軍事方面に於て、蔣介石は上海戦線並に徐州戦線に有力なる中央軍直系部隊を配備しながら、戦況不利と見るや逸早くこれを後退せしめ、地方軍をして皇軍との激突に當らしめたことは周知の事實であるが、この狡猾なる常套手段によつて蔣介石は廣東の黃浦、南京の中央兩軍官學校に於て親しく訓育した青壯年將校を中心とする整理師團三十二個師並に獨立旅團五個旅の大部分を今日なほ安全に保持してゐる。開封・鄭州の線に増遣されつゝあつた胡宗南、程潛、薛岳等の中央軍が、皇軍の猛激開始と、もに一齊に後退するであらうことは、歐米諸新聞紙の特派通信員さへも齊しく豫想しつゝあつたところである。

かくて國民黨政權は今日なほその存續に必須なる諸條件を悉く具備し、近き將來に於て隴海鐵道に據る北方防禦の全線を喪ひ、河南、安徽兩省が完全に新政權の統治下に編入された曉に於ても、なほ強大なる政權として中、南支に暴威を振ふ餘力は充分にあるものと察せられる。しかも隴海線の崩潰、北支地方雜軍の離散等によつて或は蔣介石の屈伏を期待し、或は國民黨と共產黨との抗争激化、國民黨内部に於ける主和派と主戦派との暗闘深刻化等による國民黨政權の自壊を豫想することはこの上もなく危険であつて、蔣介石を中心とする支那抗日勢力の對日屈伏が絶対に不可能であること、並にこの勢力をして今後永く存續せしむべき諸條件が悉く具はつてゐることは、過去及び現在に於ける幾多の事實が嚴乎として立證するところである。

然らばこの執拗にして頑鞏なる抗日國民黨政權を撃滅するために、日本は果して如何なる措置をとるべきであらうか？

國民黨政權撃滅のためには、該政權の存續に必要な諸條件の少くとも大半を完全に破壊することが絶対に必要である。而してその具體的方策としては、支那新興政權に徹底的協力を與ふることによつて政治的、思想的並に經濟的に國民黨政權の國內に於ける威力を削減し、世界政策遂行の見地よりする我外交陣の全面的活躍による國際情勢の改善



に努むることなどが必要であることは勿論であるが、しかし交戦期にある現下事態に於ては、我對支軍事行動の急速なる進展こそ最大喫緊の重要事である。この軍事行動の飛躍的進展なくしては、如何なる經濟政策も文化工作も外交活動も凡てその威力の大半を失ふであらうことは敢て説明を要しないところである。

然らば國民黨政權の存續を可能ならしむる諸條件を、我軍事行動によつて破壊するとは、具體的には如何なることを意味するのであるか？

言ふまでもなくそれは國民黨政權をして存續の可能性を確保せしめつゝある經濟的、政治的、軍事的、外交的諸條件の根據となる地域を完全に制壓し、進んでこれを新興政權の統治下に編入し、以て國民黨政權をして再び起つ能はざるまでの窮地に追込むことを以て最低の條件とする。更に具體的に言へば、現在實質的に國民黨政權並にこれと勾結せる共產黨その他の抗日諸勢力の對日抗戰根據地となれる漢口、抗日支那と海外との交通路の咽喉をなせる廣東の兩都市並にその附近一帯の完全なる占領こそ國民黨政權擊滅のための最低必須條件であり、従つてこれこそ今次事變解決の最低前提條件である。

### 漢口完全占領の意義

徐州を中心とする抗日第五戦區の潰滅、鄭州開封を含む抗日第一戦區の崩壊切迫によつて國民黨政權はその根據地を遠く雲南省城崑明に移さんとし、六月四日、早くも漢口残留二十萬市民に對し三週間以内に避難すべき旨命令したと傳へられてゐるが、しかし漢口の重要性は依然喪はれてはゐない。

普通漢口もしくは武漢の名をもつて呼ばれるこの地は、楊子江右岸の武昌、左岸の漢陽及び漢水を隔て、漢陽と相對する漢口の三都市——所謂武漢三鎮によつて構成されてゐる。武昌は古來支那中原に於ける政治、軍事の中心地として重きをなし、現在に於ても湖北省政府、各種重要軍事機關等があつて、南京、上海喪失後の國民黨政權にとつては最も重要な軍事、政治、文化の中心地となつてゐる。漢陽は國民政府直營の鐵工廠、兵工廠を初め製粉、製絲その他各種の民間大工場が建設され、上海、青島、天津等の重要工業港都を喪つた國民黨政權にとつては廣東とともに最も重要な工業地帯をなしてゐる。

更に漢口は新興商業都市としてこれまた現在の國民黨政權治下最大の經濟中心地である。而してこの武漢地は古來「九省の會」と呼ばれてゐる如く、そのヒンターランドは支那中央部九省の廣大な地域に及び、殊に武漢を挾んで南北に位する湖南、湖北の兩省は米、綿その他の農産物に富み、「兩湖饒れば天下足る」と言はれるところである。

しかも支那本土を南北に縦貫する粵漢、京漢兩鐵道と、東西に横斷する楊子江とはこの地に於て交叉し、實質的には支那の中心點である。従つて楊子江流域の物資が漢口を最大の集散地とするのみならず、香港、廣東を通じて輸入される海外の物資もまた多く此處に集まつて更に奥地に轉送される。かくて漢口は上海、天津、廣東に次いで支那第四の貿易港となつてゐるが、最近二ヶ年間に於けるその貿易狀況を見るに、大體左の如くである。(「海外經濟事情」昭和十三年第八號に據る。單位千元、%は全支輸入又は輸出額に對する比率)

	輸 入	%	輸 出	%
昭和十一年	三二、八七五	三・四八	一三、五五九	一・九二
昭和十二年	三三、四二二	三・四九	九、〇一一	一・七〇

海より六百數十哩を溯つたこの漢口に於ける貿易額が右の如き數字を示してゐること

は、この地の水陸兩路による運輸の便が如何に發達してゐるかを立證するとともに、この地の物資集産地として重要性をも如實に示すものと言ふべきであらう。

更に軍事、政治兩面に對する漢口の重要性は、往昔より「中京事あれば武漢の地先づ亂る」と言はれ、また「之を得る者は興り之を失ふ者は亡ぶ」とさへ評されて來たことによつても略々想察出來るであらう。殊に蔣介石の四川、貴州方面並に甘肅、陝西等所謂西北支那の制壓、北支、南支、四川、南京、上海方面への航空路開設、浙贛、玉萍兩鐵道完成等によつて漢口の軍事的、政治的重要性は愈々増大してゐる。

一九三四年以來、蔣介石が獨逸より招聘した軍事最高顧問フオン・ゼークトの指示に基き、巨費を投じて漢口を中心に楊子江の沿岸百數十哩に互つて百數十個處の砲壘を築造し、英國との勾結によつて粵漢鐵道を急遽全通せしめ、更に事變前より漢口を中核として着々工事を進めつゝあつた安慶・六安・信陽線、麻城・應城線、謫家磯・東湖・長新集・黃陵線の三重の堅固な近代的防禦陣地を完成したことなどは、國民黨政權にとつて漢口が如何に重要な地點であるかを立證するものである。

更に中國共產黨が昨春國共再合作に成功して以來その代表團を正式に漢口に駐在せし

めてゐるのみならず、優秀な青年黨員をこの地に潜入せしめて各種の工作に當らしめ、昨秋國民黨政權が實質的に漢口に移轉して後は共產黨の機關紙「新華日報」をこの地に發行し、各種の不定期刊行物を多量に出版し、更に外廓的な諸種の團體を組織して民主共和政治實施を名として國民黨の獨裁排撃、赤色支那建設への準備工作を進めるとともに、「武漢三鎮を死守せよ！」のスローガンを掲げて執拗に軍民各方面に呼びかけつゝあるが、その重要な理由は漢口が共產黨の抗日救國に籍口する國民黨への喰込み工作に最も好適なる地點であると同時に、新疆、外蒙より西北支那に殺到せるソ聯赤色勢力の最前線が漢口に伸びてゐることにあるのである。而してソ聯の援助に多大の期待をかけて來た國民黨政權が、ソ聯及びその支那に於ける代辯的勢力たる共產黨のかゝる魂膽を知りつゝも、却つてこれを逆用し、對日抗戰力の維持に資せんとして狂奔しつゝある策源地もまた漢口であるのである。

如斯上海、南京喪失後の國民黨政權にとつて、漢口こそは政治的にも軍事的にも經濟的にも最も重要な地點となつてゐるが故に、もしこの要衝を中心とする一帯の地域が皇軍によつて完全に占領された暁には、支那の中央勢力としての資格を實質的に著しく削

減され、延ひては對内的にも對外的にも威信と信用とを失墜し、その所謂抗日統一戰線に深刻な動搖を來たすとともに、實利主義に立脚する歐米列強の援助も漸次消極的となることは蓋し避けがたいところであらう。その結果、國民黨政權の共產黨に對する權威は益々低下し、國共合作、聯ソ容共の政策も國民黨にとつては次第に重壓となり、共產黨の跳梁、ソ聯の強壓に對して著しく讓歩的態度に出でざるを得ないことゝなるであらうことは想察に難くないところである。六月三日、重慶の國民黨中央黨部に於て開催された第十四次中央監察委員常務會議が、共產黨の強要に應じて毛澤東、朱德、周恩來、陳獨秀以下總數二十六名の共產黨最高幹部に對し、國民黨員としての資格を授與することを正式に承認したことは、一面に於て國民黨政權が今やその最も重要視せる一黨專制の主張を枉げても共產黨との合作を繼續せざるを得ないほど脆弱化せることを立證するものであると同時に、他面に於て漢口放棄後の國民黨政權内部に共產黨が更に一層深く喰ひ込み、否應なしにこれを内面より赤化せんとする豫てよりの企圖實現に巨大なる一步を進めたものと言へやう。

かくて漢口の喪失は國民黨政權にとつて致命的とも言ふべき深刻なる影響を及ぼすこ

と明瞭であるが、これを日本側より見る時、自ら別個の重要な意義を發見することが出来る。即ち漢口及びその一帯の地域を完全に占領することによつて國民黨政權潰滅の期を著しく促進し、従て我對支軍事行動の目的達成に劃期的な前進を示すと、もに、日本がその健全にして迅速なる發展を冀望しつゝある新興支那政權をしてその統治地域を現在の江南地區より武漢の線にまで擴大し、名實ともに中央政權としての條件を着々具備せしめ、以て明朗東亞建設に巨大な一步を進めることを意味する。

更に漢口を制壓することは、楊子江によつて四川省を經濟的、軍事的に牽制し、農、礦産物の豊富をもつて知られる湖南並にその隣省江西を鐵道を通じて抑へる可能性頓に増大するのみならず、中國共產黨を手先とするソ聯勢力の支那中原への進出に徹底的な打撃を加へることを意味するのである。

### 廣東完全制壓の意義

皇軍による漢口の占領は、叙上の如く國民黨政權にとつても赤色勢力にとつても、更に

日本にとつても實に重大なる意義を有するものであるが、しかし漢口喪失を以て直ちに國民黨政權の潰滅を期待することはなほ早計の讒を免れないであらう。何故ならば、たとへ漢口を中心とする楊子江流域の中原地帯を喪ふとしても、南支の最重要地點廣東及びそのヒンター・ラントたる廣西、四川、貴州、雲南等所謂西南支那が掌中にある限り、國民黨政權はなほ強大な勢力を持續すること必しも困難ではないが故である。

即ち人口三千萬を擁する廣東省の省城廣東(廣州市)は廣九鐵道によつて直ちに英領九龍及び香港に聯繫し、粵漢鐵道及び自動車道路によつて湖南、貴州、廣西と連なり、經濟的には漢口に勝るとも劣ることなき重要な地點である。しかも廣東は現在國民黨政權の確保せる唯一の大海港であり、その貿易額も左の數字の示す如く上海、天津に次いで全支第三の地位を保つてゐる。

	輸 入	%	輸 出	%
昭和十一年	三〇、九〇五	三・二七	四二、四八七	六・〇一
昭和十二年	四五、一六六	四・七二	六三、八四六	七・六一

(「海外經濟事情」昭和十三年第八號所載、單位千元、%は全支の輸入又は輸出額に對する比率)

これと、もに廣東にとつて別の出口とも見らるべき九龍の左掲の如き貿易額を考へ合はせる時、廣東が貿易港として如何に重要な地點にあるか、明瞭に察せられるであらう。(左掲九龍の輸出入額及び%は前掲廣東のそれと同様資料に據る。)

	輸 入	%	輸 出	%
昭和十一年	五七、五五〇	六〇九	六、二四五	〇・八八
昭和十二年	八二、七二六	八・六五	一六、六四五	一・九八

英領の自由港香港を控へ、その對岸九龍を別の玄關口とする廣東は、平時に於ても極めて重要な貿易港であるが、北・中支の海港を全部占領された後の國民黨政權にとつては實に唯一無二の海外への通路であり、従つてその貿易港としての價值も更に一層増大してゐること勿論である。而して、事變勃發以來廣東自體により、また此處を中繼地として輸入されるもの、大部分が武器、彈藥その他の軍需品であることは周知の事實であるが、昨年八月より約八ヶ月間に香港、廣東を経て運び込まれた軍需關係品の價額は大體四億元強と見られてゐる。而して香港を策源地として英國官憲の庇護の下に公然行はれつゝある軍需品の輸入は、廣東が國民黨政權の支配下に置かれてゐる限り、少くとも

明年春頃までは繼續する可能性があり、更に孫科を代表者として舊冬來交渉中の對英一千萬磅の借款が成立すれば、この種の輸入はそれだけ多く且長期に互つて行はれるであらう。

國民黨政權にとつての廣東の重要性は右の如く武器、彈藥その他の軍需品の輸入路といふ點に於て最も顯著に認められ、兼て國內物資の海外輸出口としても重要視されるのであるが、なほこの他に、財政的並に政治的にも重要な意義をもつてゐる。即ち上海が皇軍の制壓下に入ると、もに、英國と國民黨政權との直接的な折衝地點は必然的に香港に移されたが、漢口に根據を置く國民黨政權の要人が自由に香港に出入し得る理由は廣東がその掌中に確保されてゐるが故である。而して國民黨政權が英國を中心とする對支財政援助並に國內的、國際的政治に關する指導、支援を主として香港に於て受けつゝあることは覆ふべくもない事實である。

廣東の確保は、國民黨政權にとつて如斯重要性をもつのみならず、英國にとつてもまたこれはその支那に於ける經濟的、政治的勢力の安危を支配する重大な問題である。即ち香港を以て對支政策遂行の最後の據點とする英國としては、香港と支那大陸との聯繫

點たる廣東をその走狗たる國民黨政權の支配下に保持せしめることは絶対に必要であるとの見地より、一九三六年夏の西南事變に際しては南京政權に協力し、陳濟棠政權を倒して廣東を蔣介石の支配下に編入せしめ、同年秋の香港、九龍攻防演習に於ては秘かに國民黨政權の軍事専門家數名を招いて廣九鐵道沿線に於ける英支共同作戰に参加せしめたが、この演習の結果香港防備の脆弱性を發見し、爾來巨額の豫算をもつて香港、九龍一帯の要塞構築並に陸海空軍の強化に狂奔し來つたことは各國新聞紙の屢々報道したところである。しかも香港、九龍のかゝる大規模な軍備も、國民黨が廣東をその掌中に確保してゐてこそ意味のあるものであつて、もし廣東が皇軍の攻略を受けることゝなれば、英國側のかゝる軍備も徒らに日本との激突の種を蒔く以外何等の存在理由も發見し得ないものとなるであらう。

かくて皇軍による廣東の完全なる制壓こそは漢口の占領と相俟つて國民黨政權を愈々奥地に追込み、最低限度これを廣西、雲南、貴州、四川方面に蠢動する微弱なる一地方政權に轉落せしめると同時に、過去一世紀の長きに互つて支那を侵略しつゞけ、最近年に於てはその最も重要な地帯を半ば自國の植民地にも近いものとして取扱つて來た英國勢力

をして、支那大陸より一應退却の餘儀なきに至らしめるであらう。

この場合、國民黨政權が緬甸及び印度支那よりする英佛の援助に縋り、その傀儡として僅かに餘喘を保つことが考へられるが、しかし四川、雲南、廣西の三省は何れも反蔣軍閥の蟠踞する地域である。漢口、廣東の二大據點を喪つて文字通り地方的敗殘勢力と墮した國民黨政權をして自由にこれらの地域に安居することを許すや否や甚だ疑問と言はねばならない。假に國民黨政權がこれら地方軍閥を懐柔することによつて西南支那の外廓地帯たる前記諸省に支配權を振ふとしても、最早や軍事的、政治的、經濟的に再び起つ機會は恵まれず、その行先は新政權への歸順か赤色勢力への屈伏か二途何れかを除いて他に途はないであらう。

### 廣東攻略と臺灣・南洋問題

廣東の攻略は上述の如く國民黨政權に決定的な打撃を與へるものであるが、これを日本の立場より見る時、更に別個の重大なる意義を併せ有することが考へられる。換言す

れば、廣東を占領することが聽て廣東、福建兩省を制壓するに至ることは自明の理であるが、この二省が新興政權の統治下に入り、これを通じて日本との間に友好關係を確立することになれば、日本の重大關心事たる臺灣、南洋兩問題の解決を極めて容易ならしめるであらう。

即ち先づ臺灣を見るに、本島人五百萬の全部が福建もしくは廣東より渡來せる者の後裔であり、臺灣在住華僑の殆んど全部もまたこの地方よりの渡來者である。従つて父祖の地に特別に熾烈な抗日の氣運が漲り、遂に日本との間に全面的な武力抗爭を開始したことがこれら本島人に深刻な衝動を與へ、臺灣在住の華僑を通じて國民黨或は共產黨の對日逆宣傳が流布されることは蓋し避けがたいところであらう。今春支那の飛行機が臺北・新竹方面を襲つたのは爆撃を主要目的とするものでなく、實は本島人並に華僑に對する國民黨政權の宣傳工作に他ならないとの解釋が一般に行はれてゐることもまたこの間の消息を物語るものではなからうか？

また南洋一帯には曾ては一千萬、現在に於ても七百五十萬乃至八百萬の華僑が活躍し、南洋方面の經濟活動は殆んど華僑の掌中に握られ、これを無視しては何事も圓滑に運ば

ない状態にある。これら華僑の殆んど凡ては廣東もしくは福建の出身者であるが、その郷里に送附し、或は携行する金額並に南洋への投資より受取る利益金等を合算すれば、曾ては年額四億元を超へたことさへあり、最近年に於ても大體三億元内外と言はれてゐる。而してこれら華僑こそ我國製品の南洋方面への販賣者であるが、近年は國民黨政權並にコミンテルンの抗日魔手が擴く南洋華僑全般に對して差し伸べられ、事變勃發後は數多くの暴力團までも組織して救國公債の消化、國防献金、對日經濟絶交等を強制し、そのために新嘉坡その他に於ては邦人貿易商の閉店するもの相次いで現はれ、我南洋貿易に憂慮すべき惡影響を及ぼしてゐる。加之支那自體のかゝる抗日政策の蔭に潜んで英、佛、蘭各國人も旺んにこれを煽動し、我國の南洋方面に對する經濟的進出を益々阻害するに努めてゐる。

しかし我國としては臺灣の人心を常に安穩に保持するとともに、南洋方面に對する貿易を愈々發展せしむることが絶對に必要である。これがもし今後も長く圓滑に行はれないとすれば、我國に及ぼす經濟的並に政治的影響は實に甚大である。

然るにもし廣東、福建兩省が親日政權の統治下に入つたとすれば、臺灣本島人並に臺

灣及び南洋一帯の華僑も自ら平靜なる心理に還り、故郷の空氣を反映してその對日態度も漸次好轉し來ることは火を睹るよりも明かである。この意味に於て、廣東の速かなる占領は獨り國民黨政權の潰滅を促進するのみならず、我國經濟の發展に偉大なる効果を齎らすものと言はねばならないのである。

### 廣東・漢口即時攻略の急務

以上概述したところによつて今次事變解決の最低條件が國民黨政權の擊滅にあり、この目的貫徹のためには廣東・漢口兩地の完全なる占領が必須不可缺の緊要事として要求されてゐることが明瞭になつた。

然るに現在我國の一部には、或は意識的に、或は不知不識のうちに、この最低條件をさへも無視して平和の恢復を性急に望まむとする氣運がある。勿論その中には、國家百年の大計を忘れて自己の利害にのみ心を奪はれてゐる利己的な徒輩、國民黨政權の急速なる崩潰もしくは蔣介石の近き將來に於ける屈伏を夢想する認識不足の人士、廣東・漢

口の完全制壓こそ事變解決の最低條件たることを理解しつゝも、或はソ聯進出の惡夢に脅かされ、或は恐英病に惱まされて孤疑逡巡しつゝある者などがある。しかしその理由の如何にかゝはらず、嚴然たる現實に目を覆ひ、動かしがたき眼前の客觀情勢を無視して安易に趨らんとする態度は、獨り皇國の進展を阻害し、東亞の和平を自ら紊るのみならず、實に自己の負ふべき重大使命を回避し、その勞苦を百倍してこれを子孫に轉嫁せんとするものである。皇國未曾有のこの非常重大の時機に際會した者の光榮と重責とを明確に認識し、まさに果すべき重大使命を心ゆくまで果し切ることこそ吾人の最も誇とし、且つ悦とするところであらなければならない。

しかも廣東・漢口の攻略を以て最低限度とする我對支軍事行動は、飽くまでも即戰即決主義を以て強行すべきであつて、苟くも國民黨政權の所謂長期戦策略に乗ぜられるが如きことがあつてはならない。日支間の戦闘行爲を一刻たりとも延長せしめんとする長期戦々略は、日支兩國の國力減殺による極東赤化の促進を目的とするソ聯の政策であつて、抗日に狂ふ國民黨政權が愚しくも此赤魔の煽動と使噓とに踊りつゝあるに他ならぬことは周知の事實である。従つてソ聯赤色帝國主義のこの老獪陰險なる策謀に對する



我國の對策は、飽くまでも即戰即決による戦局の速かなる收拾に置かれねばならないのである。

しかしこれと同時に、我國としては今後長期に互る困難なる國內的、國際的事態に對して常に毅然たる態度を堅持し、積極的には復興亞細亞の大理想實現に、消極的には東亞の和平を紊る悪敵析伏に全力を傾注しなければならない。この意味に於て堅忍持久、長期應戰の重大覺悟と充實せる準備とを必要とするのである。

かくて即戰即決と堅忍持久との一見矛盾せるが如き二個の對策は、現下の我國にとつて避くべからざる絶對的必然であつて、吾人はこの兩者に對する認識を誤り、或は徒らに赤魔の長期戦法に引摺られ、或は短期の努力に疲勞を曝露するが如きことなく、與へられたる光榮ある重大使命の完全なる達成に一路邁進しなければならぬのである。

昭和十三年六月十八日印刷  
昭和十三年六月廿一日發行

非賣品

編輯兼發行印刷人 八幡博堂  
東京市澁谷區代々木初臺五〇八

印刷所 安久社印刷所  
東京市芝區西久保巴町七〇

東京市京橋區銀座西八ノ七

發行所

東亞協會

電話銀座(57)六九三〇

終

